

幸いな国①

2010/4/18

シリーズ～築く～

幸せになることはみんなの願い

- すべての人は幸せになることを願い、目指して生きている
 - しかし、自分(自国)も他人も(他国)も、現在も未来も幸せになることは難しい
- イエス・キリストは「神の国」を地上にもたらすために来られ、働かれた
- 「神の国」こそすべての人にとって「幸いな国」である

「幸いな国」の設計図

- イエス・キリストの言動・その生き方
- 「神の国」の教え
 - すでに到来している
 - やがて来る
- 「山上の説教」(山上の垂訓)
 - マタイ福音書5～7章
 - ルカ福音書6章他

幸いな人(5:3~10)

- 5:3 心の貧しい人々は、幸いである、
天の国はその人たちのものである。
- 5:4 悲しむ人々は、幸いである、
その人たちは慰められる。
- 5:5 柔和な人々は、幸いである、
その人たちは地を受け継ぐ。
- 5:6 義に飢え渴く人々は、幸いである、
その人たちは満たされる。

幸いな人(5:3~10)

5:7 憐れみ深い人々は、幸いである、
その人たちは憐れみを受ける。

5:8 心の清い人々は、幸いである、
その人たちは神を見る。

5:9 平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。

5:10 義のために迫害される人々は、幸いである、
天の国はその人たちのものである。

「幸いな国」とは

- 私たちは幸いな状態を願っている
 - 健康で、物が豊かで、安全であること？
- 幸いとは「状態」ではなく、私たち自身のあり方である
 - 「どうなるか」ではなく「**どうあるか**」
- ここに挙げられている「幸いな人」は、私たちが思っている幸福像とは違う
 - 「貧しい人」「悲しむ人」……

心の貧しい人

- 原語では「**霊**の貧しい人」
 - ヘブライ語では「神の前に謙っている」という意味
- 「貧しい」とは「物乞い」という意味
 - 激しく困窮していて、必死に求めている状態
- 「**霊**が貧しい人」とは、**霊**を豊かにしたいと一生懸命に願っている人のこと
 - 体(物質的)でも心(精神的)でもない、**霊**の豊かさ

霊の豊かな人とは

- 霊とは人間の根幹であり、命そのものである
 - 「主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息(霊)を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」<創世記2:7>
- 健康か否か、経済的に豊か否か、精神的に良好であるか否かに影響されない豊かさ
 - 「悲しんでいるようで、常に喜び、物乞いのように、多くの人を富ませ、無一物のようで、すべてのものを所有しています。」<Ⅱコリント 6:10>
- 「天の国(神の国)はその人たちのものである」!

「幸いな国」造りに参加しよう！

- 本当の豊かさを求めて
- 外側（周囲・環境・関係）が変わる前に、まず自分自身が変わる
- キリストがもたらされた「幸いな国」は、その国に属する人も、築こうとする人も幸いに！
- すべての人が参加することができる